

# 本県にみられたネオヘテロボツリウム症

福島県水産試験場 栽培漁業部  
福島県水産試験場研究報告13号

## 1 部門名

水産業－栽培漁業－魚病  
分類コード 19-05-26000000

## 3 担当者

富山 毅

## 3 要旨

日本海西部では、平成7年以降に吸血性単生類ネオヘテロボツリウムの寄生(ネオヘテロボツリウム症)による貧血症状のヒラメが多くみられるようになり、重度な場合には死に至ることでヒラメ資源の急激な減少を引き起こして大きな問題となっている。そこで、本県におけるネオヘテロボツリウム症の動態を把握することを目的として、平成13年4月から平成16年12月にかけて本県沿岸で採集した全長20～50cmのヒラメについて、主な寄生部位である口腔壁を観察し、ネオヘテロボツリウムの寄生状況を調べた。

ネオヘテロボツリウムの寄生率、平均寄生数は、ともに冬季にピークを示した。このことから、冬季の値を指標に寄生の動態を解析した。寄生率、平均寄生数ともに平成13、14年度は高い値を示したが、平成15、16年度は急激に減少した。これまで他の海域においては、このような急激な減少例は報告がない。減少の要因として、平成15年の低水温(6月～9月では平年値の $-2.1\sim-3.2^{\circ}\text{C}$ )によって、ネオヘテロボツリウムの増殖が低下した可能性が考えられた。

本県で水揚げされるヒラメでは深刻な貧血魚はこれまでほとんどみられておらず、平成15年以降は全くみられなかった。ネオヘテロボツリウムの寄生がほとんどなくなったことから、本県海域のヒラメ資源については、貧血症は問題にはならないものと考えられた。

## 4 その他の資料等

- (1) 平成13年度福島県水産試験場事業報告書
- (2) Infection dynamics of *Neoheterobothrium hirame* in Japanese flounder in the Joban Sea, eastern Japan. *Fish Pathology*, 39 (2004).
- (3) 常磐海域におけるヒラメネオヘテロボツリウム症の減少 平成17年度日本水産学会大会講演要旨集